

## 児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

討議年月日: 令和 5年 1月 26日

公表: 令和 5年 1月 26日

事業所名 こどもプラス日岡教室

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	<input type="radio"/>		構造的な支援を目指しているの で、スペースは広々としている。	
	2	職員の配置数は適切である	<input type="radio"/>		基本的には2~3人に1人の職員 までと待機する場合はルールを事業所内で決めてあります。受入時のみ、待機職員に対し児童が複数人 になる時がある。	待機職員に対し児童が複数人 になる時がある。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている		×		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	<input type="radio"/>		職員の工夫と清掃で心地よい空間が保たれています。	
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	<input type="radio"/>		研修で定着させているので自然に出来ていると思います。	
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	<input type="radio"/>		業務改善は子供達や職員の働きやすさや心地良さに繋がるので保護者様の評価表に向き合っています。	
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	<input type="radio"/>		ホームページへの公表も基づきどう伝えるかはしっかり考えて対応しています。	
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		<input type="radio"/>	外部評価は一度も託したことはないが早めに対策をしたい。	
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	<input type="radio"/>		全体ミーティングにて毎月研修をしている。	

適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○		ニーズや課題は保護者からのモニタリングで分析しています。	
	11	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○			
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○		関係各位で情報共有して更新を怠らず支援するように進めています。	
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○			
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		活動が新鮮なように活発な提案をミーティングで出している。	
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		活動は新鮮で楽しいと思う運動を取り入れています。	
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成している	○		組み合わせは適宣行っています。	
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		打ち合わせが重要な仕事なので、支援中でも気になれば行います。	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		緊急事項は連絡を入れています。	終業後は全員が揃いにくいいため難しいです。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		ほとんど全員が連絡帳や日報・ヒヤリハットを意識しています。	
20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○		各機関の先生や相談員の方にお互いモニタリングをさせてもらっています。		

関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		その子供をよく知った人を出すことが早い解決になるので重点を置いている。	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○		関係機関の方々と繋がる努力をしています。(部会や研修等)	
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	○		まだ未定なのですが前向きに対処したいと思っています。	もし医療ケアの必要な子ども達がいたら看護師や重度の後利用者に対応した体制作りをする。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	○		協力医療機関の先生や看護師さん達とミーティングを重ねて行き方向性を確認したい。	もし重心の後利用者を支援する場合協力医療機関の先生も支えて頂けると思います。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		出身保育園や幼稚園からの伝言や支援の方向性を聴くようにしています。	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		支援内容の情報を再度確認するようにして共有をしています。	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		研修や助言はとても助かるので部会には出るようにしています。	
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	○			今はコロナ禍の為控えています。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	○		子供部会は情報共有の場なので積極的に参加しています。	
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		良いことも気になる点などは特に時間をかけて誤解のないように説明しています。	
31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	○			ペアレントトレーニング等は時間をかけてやっています。	

保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		運営規程に誠実にご利用者様と向き合っています。	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○		契約を交わした後も説明をさせて頂いています。	
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		早急に悩み等解決出来る方向性を取っています。	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		父母会はコロナが落ち着き次第行いたいと思っています。	コロナ禍で集まる事を控えています。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○		丁寧に早くを心掛けており、職員も協力的です。	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		本社からの冊子があり毎月1回更新しています。	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	○		重点的に職員と共有しています。	
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		配慮していてもまだ心配は尽きません、丁寧にが心情です。	
40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○			コロナ禍の為今は実施出来ていません。	

非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○		訓練はしっかり出来ています。	
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		訓練はしっかり出来ています。	
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○		面談等更新させることは聴取りをしています	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		面談等更新させることは聴取りをしています	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		ヒヤリハットは気を付け情報共有をして何度も起させないように改善しています。	
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		研修において虐待カテゴリー等確認を行う。	
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	○			記載する事や同意書もある事がある事を説明しています。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。